

未来へつなげよう おいしい食卓！

大和郡山市田中町 913-3 TEL:0743-58-5225
 7月供給高 5150.9万円 (前年比 105.2%)
 7月組合員数 3,037人 (前年比 106.0%)

生活クラブ奈良

検索してみてください

議案 (賛成多数により、すべて承認)

- 第1号議案 2017年度活動報告承認の件
- 第2号議案 2018年3月5日付「みなし脱退」処理に関する理事会決定の報告承認の件
- 第3号議案 2017年度決算報告及び剰余金処理案承認の件
- 第4号議案 2018年度活動計画及び事業計画案承認の件
- 第5号議案 2018年度役員報酬限度額承認の件
- 第6号議案 役員退任慰労金支払いに関する件
- 第7号議案 役員補充選出の件



(理事長 甲斐京子)

生活クラブはF(食)・E(エネルギー)・C(福祉)のそれぞれの分野でみんなが力を合わせて取り組むことを方針化しています。今の奈良に一番欠けているのは「地域での組合員同士のつながり」です。今年度は「エッコロ共済」という仕組みを道具にして進めていくことを提案します。

2018年6月13日(水) 10:00~12:15
 やまと郡山城ホール(レセプションホール)にて
 第12回 通常総代会が開催されました。
 総代100名中、出席総代は99名でした。
 (本人出席36名・書面議決書出席62名・委任状出席1名)

「地域での人と人のつながりを」

専務理事 就任あいさつ

前身である「ウィルコープなら」立ち上げから「尽力いただいた前任の立石昭彦より重大な任を引き継ぎ、身の引き締まる思いとともに、これからの生活クラブ奈良の姿を思いめぐらせる毎日です。生活クラブという協同組合が奈良に存在する意味を考えると、それは私たちが生活している地域の課題を「当事者性」を持って考える、解決していく仕組みが生活クラブにあるということなのではないでしょうか。

「食・エネルギー・福祉」など私たちの生活に関わる分野において一緒に活動できる場があること、組合員をはじめとして生活クラブに関わる人が笑顔になることが皆さんと目指したい生活クラブの姿のひとつです。

生活クラブでは「消費材」という共通事項が強みのひとつとしてありますが、その食の安全を取り巻く状況は日に日に厳しくなっているように感じます。39%に落ち込んだ国内自給率。4月の種子法の廃止。食品表示の「遺伝子組み換えでない」との表示が消えるかもしれない事態。ゲノム編集

技術の確立による不安。など本場に多くの問題があります。もっと身近で深刻な後継者不足という問題もあります。国外に目を向けてもTPP11や日欧EPA、日米FTAなど食の流通に大きく関わる事象が国内農業に及ぼす影響が心配されます。これらのことを考えると国内外情勢は私たちの食卓と常に繋がっていると言えます。

また、昨今の異常ともいえる気候事象や地震などの災害は私たちが手にする農産品はもちろん、私たちの生活そのものに大きな影響を与えています。今までとは全く異なった事態が身近で起こる可能性があるという意識を持つことが必要になっていきます。

それらの課題に対して「まず私たちは何をすべきか」を考えたいとき、「知る・調べる・行動する」ことが大事なのではないでしょうか。

先日のカンブリア宮殿の放映では多くの反響があり、多くの組合員を迎えることができました。私たちがしっかりと生活クラブのことを伝え、知るきっかけを作ることの大切さを痛感しました。同時に「当事者性」「積極性」を持って活動できる仕組みづくりの構築が急がれると感じています。組合員、職員が生活クラブという組織を通して「10年

先にどんな世界になってほしいか」という思いを自分発の言葉で元気に語れることを目指していきたいと思えます。
 (専務理事 城本豊)



大貫道代 (中・南部エリア)

美味しく食べて、安心して食べる事が出来る『卵』と『牛乳』を探し求め、出逢い・・・今では沢山の生活クラブの消費材に支えられている毎日です。
 組合員になってから学んだ事、考えさせられた事を、少しずつ形にして、『奈良』らしい生活クラブの活動を、皆さんと共に楽しんでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



今年度の主な活動予定

- 8月 2日(木) 村上日苗さん (福島県飯館村より避難) お話し会 (リフレッシュツアー) 関連
- 8月28日(火) ~31日(金) リフレッシュツアー
- 9月12日(水) 奈良県つくばね発電所見学 (奈良県生活協同組合連合会主催)
- 9月28日(金) 竜おうみ米 稲刈り見学 (理事研修)
- 10月 4日(木) ネグロスツアー報告会(大阪 関西6単協共催)
- 10月 7日(日) パラマウント足と靴の相談・販売会
- 10月26日(金) ビオサポ子どもラボ研修 (理事研修)
- 11月18日(日) 「奈良フェスタ」
- 12月 3日(月) ㈱コーミ工場見学
- 1月~2月 食品表示法関連講演会(予定)

新しく理事になりました ともに考え、楽しみましょう

山口幸子 (中・南部エリア)
 約7年前大阪から三郷町へ引越して来ました。高校生の頃チエルノブイリ原発事故があり、放射能汚染や環境問題を考えるようになったりました。
 28年前、自然食レストランで玄米定食を食べたその美味しさにとっぴりはまり、マクロビ生活を始めました。専門の月刊誌を年間購読し、食べ物には自然食品店で購入。仕事にも出張にも玄米おにぎりや青汁持参で。その頃は友達や親にまで変人だと思われていましたが、私にとっては、食へのこだわりは大事な事でした。
 私にとって生活クラブは正直、ベストではないがベターだと感じていました。他の組合員にとってもそうではないでしょうか？皆にとって、今より更にベターになって欲しいと願い、一緒に考え、活動していきたいと思えます。

お知らせ!

「リフレッシュツアー」開催
 2018年8月28日(火曜日)~8月31日(金曜日)
 福島の組合員とその家族のために、初めて取り組みます。放射能汚染を気にすることなく、子ども達は外で思いっきり遊び、大人達はほっこりと、奈良でのびのびと過ごしていただければと思います。カンパや、お手伝いスタッフを募集しています。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

「奈良フェスタ」(仮称) 開催決定
 2018年11月18日(日曜日) 11時~14時 奈良県文化会館にて
 参加予定は約28生産者です。試食と販売を予定します。生産者と直接会って、消費材への理解を深めましょう。初めて秋の開催です。今後、詳細はチラシで伝えていきます。



まんべんなく色づくように、サクランボは樹に沢山なり過ぎると樹勢を弱めるため、適度な剪定を行います。また、実に日光が当たってまんべんなく色づくように、葉を落としたり地面を銀のシートで覆って樹の下から日光を反射して光が当たるようにしていました。除草剤は使わず、堆肥をまき、受粉も「まめこばち」を園地で飼って行うなど、本当に手間暇かけて丁寧に作って

奈良では毎年おなじみの、山形県米沢郷牧場からのサクランボとデラウエアですが、今年から、6生協（大阪・京都・滋賀・奈良の4生協にエスコープ大阪と都市生活の2生協をプラス）で統一して、取り組むことになりました。サクランボの予約注文が、計画量の1.5倍あり、第3回目の注文は届けられなくなるなど、ちよつと残念になりました。

サクランボとデラウエア園地視察

エリア活動が始まります

(奈良エリア・奈良市(1251名) 生駒エリア・生駒市(691名) 中南部エリア・奈良、生駒市以外(1091名)(2018年6月現在))

私たちの地域運営は3つの括りで活動しています。今年度、奈良エリアは委員4名とオプザーバー2名・理事1名で活動がスタートしています。生駒エリアは1名の委員と理事2名、中南部エリアは2名の委員と3名の理事で準備委員会として活動をスタートします。住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らし続けるために、いろんな問題に向き合う必要があります。仲間たちと一緒に地域の暮らしの中の課題を見つけ、解決するために必要なことを考え、暮らしやすい地域

づくりを目指す。その道具の一つに生活クラブのエリア活動があると思います。まずは組合員同士のつながりを広げる活動提案をし、独自の組織運営を設けるこ

私のこだわり消費材について語りましょー！食べましょー！

7/13(金) とみの里ふれあい会館にて

運営メンバーが集まるといつも消費材の話で盛り上がるので、他の組合員の皆さんはどうなのだろう？と、今回このテーマを選び

とを目指します。これから様々な企画をチラシで呼び掛けていきますの、積極的に参加してまずは楽しんでください。(理事長 甲斐京子)

ました。交流会では、新しい組合員からの質問を、皆で話し合うなど意見交換が盛んで、やはり思いは同じなんだと実感することができ

下さっていました。「おいしくないよ、やっぱりだめでしょ」との生産者の言葉が印象に残りました。急斜面での作業

急斜面での作業

デラウエアは、1回目のジベレリン処理(種なしにするための処理)が終わって、ブドウの緑色のつぶつぶが少し膨らんだ状態でした。斜面で育てる方が日当たりや風通しが良く、ブドウ栽培に適した水はけの良い地面となること、山の急な斜面に立って自分

(理事 岡田真澄)

私たちの牛乳でモッツアレラチーズ作りに挑戦!

牛乳消費地交流会 (主催:消費委員会) 6月28日 生駒北コミュニティセンター はばたきにて

酪農家を身近に感じて 私達の飲む牛乳の原乳は、南信酪農業協同組合に所属する17戸から供給されています。三村さんはそのお一人。乳牛達が繋がれることなく自由に動き回り自由に眠れる方式の牛舎や搾乳ロボットを導入し、高品質な牛乳を生産と酪農業への強い思いを持って、日本の酪農を取り巻く厳しい環境に立ち向かっておられます。

酪農家を身近に感じて

長野から、新生酪農安曇野工場の塚田裕幸さんと酪農家の三村純一さんに来ていただき、参加者29名で消費地交流会を開催しました。

手作りモッツアレラ

交流会後半はノンホモ牛乳を使ってモッツアレラチーズ作りに挑戦。65℃まで温めた牛乳に酢を加えてゆつくりかき混ぜていくと、白いチーズが徐々に分離してきます。さらに木べらを使って90℃以上のお湯の中で丁寧に練れば、モッツアレラチーズの出来上がり！氷水で冷やし、トマトとパルメザンソースで試食しました。分離した水分(ホエー)にはカルシウムやビタミンが多く含まれますので、酸辣湯(サンラータン)を作り、余すことなく私達の牛乳を使いましょう。

飲むなら、安全でおいしい牛乳を！というシンプルなお気持ちで大事にしてみませんか！その「気持ち」と私たち一人ひとりの「利用」が、この牛乳を支え、守っています。どうぞ、年間を通して不

(理事 堀口雅子)

動物も人間もやさしいネグロス島 バナナのふるさと



ネグロス島は暑いといえ暑いのですが、日本の夏のように焼けるような暑さではなく、低温のお風呂に長く入っているような感じでしょうか。じわじわ汗が出てきますが、風もあるの

っていました。また「生活と自治」に詳しい運営メンバーから、新聞やテレビからでは正しい情報が手に入らない今日に、100円で知りたい情報が詰まっています。ぜひ読んでもらいたい、と紹介すると、「主人は読んでいるけど、私も少しずつ読むようにします」など、興味を持って頂けました。

自分の子供を育て生活をしている。人間は、その時必要なだけの食材を収穫し、薪の火で調理する。食事の前には年長者がお祈りをし、皆で折り皆で分け合い、家族全員一緒に食べる。なんて豊かなのでしよう。

村から帰りの道中に車が急に止まり、運転手さんがイロンゴ語で何か叫んでいる。何かな？と思っ

(理事 山口幸子)